

映画〈道草〉 自主上映会のご案内



2022(令和4)年
3月6日(日)
10:00~11:30
尾張一宮駅前i-ビル
7階シビックホール

みちくさ

とき 2022(令和4)年3月6日(日)

10:00~11:30 (受付開始9:30)

場所 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)7階 シビックホール

一宮市栄3丁目1番2号

鑑賞券 定員：110名 定員に限りがありますので、観覧ご希望の方はお早めにお申し込みください。

鑑賞チケット 1000円 (未就学児は無料)

パンフレットつき鑑賞チケット 1700円

VIP 鑑賞チケット 5000円 (座席指定+本上映会への応援資金とさせていただきます)

当日券 1200円 (空席のある場合のみ)

注：チケットはパソコン・スマートフォンなどからお申し込みの上、Peatixにてお支払いください(操作が難しい方はトトレレまでご相談ください)。お支払いは、各種クレジットカード、コンビニ(手数料220円)、ATM(ペイジー)、Paypalがお使いいただけます。

購入後は、いかなる場合でもキャンセル・変更・払い戻しはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

チケット申込み
はこちら



知的障害のある人のひとり暮らしとは？

障害のある人もない人も、それを支える人も

—だれもが共に地域で共に暮らす姿が描かれた映画〈道草〉の上映会です。

▼こんな方におすすめ

- ・本人が主人公の支援について考えたい
- ・障害についてや障害がある方について知りたい方、学びたい
- ・障害のある方の保護者の方、ご家族・ご友人、支援にかかわる方 など

障害や生きづらさ、困りを抱えた人が孤立することなく、
あたりまえに地域で暮らす社会について、みなさんで考えてみませんか。



はみ出していく。
よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、困いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わりなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。

ひとはさびし、ふたりで歩く。
雨は降る、陽は輝く。人は泣き笑う。

<知的障害者の暮らしとは？>

知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、親元で暮らしているのが実情です。2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰もがともにあるために、新しい選択肢を見つめてみませんか？



会場では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を施します。
ご来場のお客様にも、マスクの着用等のご協力をお願い致します。

▼映画「道草」公式サイト <https://michikusa-movie.com/>

<お問合せ・お申し込み先>

住所 一宮市多加木 1-16-14 放課後等デイサービス トレトレ 担当：豊島・柴山
TEL 0586-64-6106 FAX 0586-64-6107 E-mail info@tetre.link

★Peatix 本上映会チケット申込み <https://tetre.peatix.com>